

牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

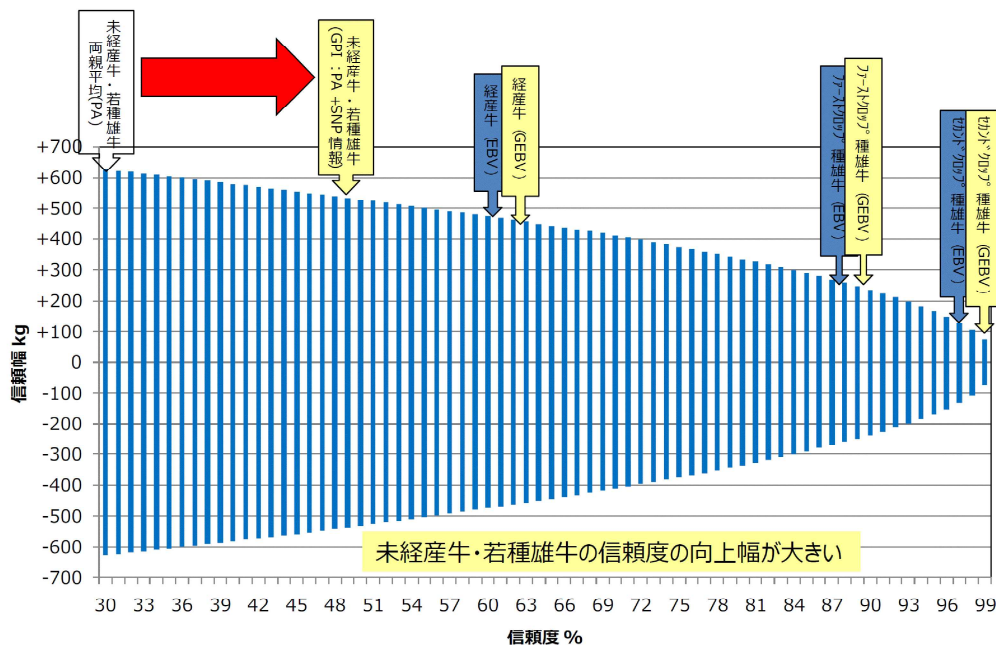
- 1 畜産コンサルタント 8月号 公益社団法人中央畜産会
改良効果を最大限に引き出す繁殖と飼養管理—牛群検定の活用—
SNP検査を活かした牛群検定の活用
- 2 大地 7月20日号 よつ葉乳業株式会社
牛群検定から見る現場に役立つ繁殖情報その2—分娩管理—
牛群検定データを繁殖改善に利用しましょう [よつ葉乳業 検索](#) [酪農経営お役立ち情報](#)
- 3 全酪新報 8月1日号 全国酪農協会
牛群検定ワンポイントレッスンその50 暑熱・寒冷対策に「カウダス」
気象情報アメダスを牛群検定に取り込み、新しい情報提供を開始しました
- 4 家畜人工授精 7月号 一般社団法人日本家畜人工授精師協会
最近の乳用牛群検定成績から その1
平成28年の牛群検定成績の繁殖情報を解説
- 5 L I A J ニュース 7月号 (一社) 家畜改良事業団
新しい牛群検定成績表について (その49)
推定体重、推定飼料効率等 [検定成績表見方 検索](#)
ボディコンディションスコアを使って、飼料効率の良い牛群に改良しましょう。

ゲノミック評価情報の信頼度が向上します！

この9月頃から届けられる「牛群改良情報（ゲノミック評価情報）2017—8月」から、遺伝評価の信頼度が50%程度まで向上します。雌牛の遺伝評価は種雄牛と比べ、娘牛や兄弟姉妹の頭数がどうしても少ないので、種雄牛の遺伝評価の信頼度よりはどうしても低くなります。しかし、通常の初産終了時点での雌牛の遺伝評価の信頼度が60%程度であることを考え合わせれば、今回の信頼度の向上が非常に大きなものであると言えます。これは、北米のSNP情報も新たに利用しながらSNP-BLUPという新しい方法でゲノミック評価を行うように改善されたことによります。

また、従来、経産牛は、血縁と泌乳記録等から遺伝評価（EBV）されていました。今回から、未経産時代にゲノミック評価された牛については、この情報も活かした遺伝評価（GEBV）となり、信頼度の向上、および総合指数（NTP）や耐久性成分（体型）が表記されるようになります。

ゲノミック評価による信頼度向上のイメージ



9月！堂々リリース！年間子牛生産状況！
牛群検定で子牛の哺育情報を



これまでの牛群検定では、子牛の哺育管理関係の情報はありませんでした。この9月から新たに検定成績表の裏面に情報提供します。その概要をお知らせします。パワーアップした牛群検定をご活用ください。

(1) 牛群検定における分娩状況

検定日の前々月末日から1年間遡った分娩状況（産子の品種は不問）です。死産が5%を越えるようでしたら、分娩管理を改善する必要があります。死産、難産、早産は、飼養管理により改善できます。十分な敷きわらを入れた清潔な分娩房、BCS、削蹄、もっと基本的なところでは分娩予定日の把握など、再確認しましょう。

新情報！推定新生子早期死亡（矢印）

前述の1年間で耳標を装着する前に、1週間程度で死亡したと推定される子牛の頭数です。初乳、保温、臍の緒などの分娩後の子牛の手当に課題があると高い数値となります。都府県平均で3～4%程度ですが、0%を目指しましょう。

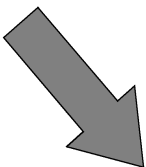
(2) 乳用牛の生後1週間／1ヵ月までの管理状況

出生後に耳標を装着した乳用種のみが表記の対象です。生後1週間の死亡が多い場合は、前述同様に分娩後の子牛の手当を確認してください。出生直後は免疫を初乳に依存しますが、その後1ヵ月齢位から子牛自身が産生する自己免疫に移行します。従って、免疫が切り替わる1ヵ月齢までは肺炎等に非常に弱いものです。1ヵ月までの死亡が多いときは、子牛の栄養、保温、換気などの管理を再確認しましょう。また、母牛の乾乳期の栄養状態が子牛の胸腺（免疫生産）の発達に影響すると言われています。

年間子牛生産状況

(平成28年02月～平成29年01月末 分娩または出生)

(1) 牛群検定における分娩状況



母牛	分娩					流産 (分娩に含まず) ※3	推出生数 ※4	推定新生子 早期死亡 ※5	
	分娩数 頭	死産 %	難産※1 %	早産※2 %	双子以上(♂♀) %			頭	%
1産	37	5.41	5.41	2.70	0.00 (0.00)	2.70	35	0	0.00
2産	34	2.94	8.82	0.00	5.88 (2.94)	0.00	35	0	0.00
3産以上	60	8.33	5.00	5.00	3.33 (3.33)	1.67	57	2	3.51
計	131	6.11	6.11	3.05	3.05 (2.29)	1.53	127	2	1.57

※1 分娩難易3以上
※2 授精報告があり妊娠期間が180～270日のもの、授精報告がない場合は判定できません
※3 分娩数を分母とした場合の流産の割合
※4 推定出生数＝(死産×0)＋(単子分娩×1)＋(双子分娩×2)＋(三子以上×3)
※5 出生後耳標装着前の推定死亡、出生報告が遅延すると値が大きくなる場合や表記されないことがあります

(2) 乳用子牛の生後1週間／1ヵ月までの管理状況

乳用種	出生報告数 ※6 頭	生後1週間				生後1ヵ月※7			
		異動 頭		死亡※8 頭		異動 頭		死亡※8 頭	
♂雄子牛	19	15	78.95	1	25.00	-	-	-	-
♀雌子牛	35	1	2.86	0	0.00	2	5.71	1	3.03

※6 年間に当該農家で耳標装着された出生報告
※7 生後1週間を含む、雄子牛については非表示
※8 異動後に死亡した牛を除く 死亡率＝死亡頭数÷(出生報告数－異動頭数)

(3) 自家生産牛の比率

本牛	頭数	自家生産	導入
		頭	頭
1産	37	100.0	0.0
2産	34	100.0	0.0
3産以上	60	96.7	3.3
計	131	98.5	1.5

(3) 自家生産牛の比率

近年、子牛の育成を預託することが盛んに行われるようになりました。特に無登録牛が多い農家ですと、自家生産の牛が何頭いるのか、把握困難となってしまいます。

初妊牛が高値となっている現況において、導入牛への依存度を把握することは非常に大切なことです。